



表彰関係資料

1 被表彰者

- (1) 松浦 智早 様
- (2) 稲本 信次 様

2 表彰事案

- (1) 日時
平成 30 年 4 月 20 日（金） 6 時 19 分頃
- (2) 場所
西宮市高座町 15 番所属 道路上

(3) 内容

上記場所を走行中の路線バス内で心肺停止となった救急事案

3 表彰事由

上記表彰者は、路線バス内での救急事案に際し、適切な応急処置等（胸骨圧迫、気道確保等）を行い、一致協力して人命救助に多大な貢献をされた功績

4 功績内容

路線バス（阪急バス）走行中の車内において、座席に座っていた傷病者が突然唸り声をあげたため、乗客として乗車していた松浦氏及び稲本氏が異変に気づき、様子を見に行くと、座席に座った状態で意識消失している傷病者を発見。松浦氏は心臓発作の可能性があると判断し、車内で「心臓発作です。救急車を呼んで下さい。」とバス運転者及び他の乗客に依頼した。松浦氏からの依頼を受けたバス運転手は安全な場所でバスを停車させ、松浦氏の依頼を聞いていた乗客が 119 番通報を行ったものである。

松浦氏は、その後、稲本氏と協力して傷病者を車内で仰臥位に体位変換し、傷病者の状態を観察したところ、呼び掛けに反応がなく、また、脈を触れたところ脈拍が触れないため、すぐに胸骨圧迫を開始した。

稲本氏は、松浦氏が胸骨圧迫を開始したのを確認後、傷病者の頭部側へ移動し、救急隊到着までの間、気道確保を行っている。

救急隊現場到着時、傷病者はバス車内にて仰臥位の状態で倒れており、松浦氏が胸骨圧迫を実施し、稲本氏が気道確保を行っていた。傷病者を引継ぎ観察したところ、傷病者は CPA 状態^(※注1)であり、AED を装着したところ、初期心電図波形で VF^(※注2)を認めたため、バス車内で除細動を実施。その後、指令課判断で同時出動していたラピッドレスポンスカー^(※注3)の医師が到着し、車内で二次救命処置(気管挿管)を行うとともに、医師同乗のもと、病院搬送となった。搬送中の車内にておいても VF を確認したため、医師の指示のもと除細動を実施したところ、病院到着前に心拍が再開した。

なお、救急隊が病院を引揚げる際には、傷病者の意識は回復(開眼有、気管挿管中であるが意思疎通は可能)している状態であった。



松浦氏は過去に普通救命講習を受講した経験があるため、傷病者の容態変化にいち早く気づき、バス運転手や他の乗客に対して早期に助けを求めるとともに、救急隊到着までの約5分間、一人で絶え間ない胸骨圧迫を継続している。

稲本氏も松浦氏同様、過去に救急講習を受講した経験から、傷病者の異変にも早期に対応し、松浦氏と協力して体位変換を行い、救急隊到着まで気道確保を実施している。

本症例は上記に記載のとおり、松浦氏及び稲本氏が早期に傷病者の異変に気づき救急要請させたこと、また、傷病者を観察後、すぐに胸骨圧迫及び気道確保を行ったことが救命の連鎖を確立し、搬送中の車内にて、傷病者の自己心拍再開に繋げることができた症例であり、傷病者の救命に大いに貢献したことから表彰を行うものです。

※注釈

(注1)

C P A 状態：心肺停止状態。

(注2)

V F：心室細動。電気ショックが必要な心臓の状態。

(注3)

ラピッドレスポンスカー：救急傷病者の容態が悪いと思われる場合等に、救急救命センター一の医師や看護師が乗車し、救急車の元に駆けつける車。

以 上